

フェローテックホールディングス [6890・JQ]

2022年3月期通期業績予想2度の上方修正 3年950億円の投資計画で成長スピード加速

半導体関連製品を手掛けるフェローテックホールディングスの業績が好調だ。世界的に不足が続く半導体市場からの旺盛な需要を受け、今期の通期業績は創立以来過去最高を見通す。株価も昨年1月の1600円台から今年の年始には4200円とおよそ2.5倍にまで伸長した。同社は昨年12月に約190億円の公募増資を実施したほか、24年3月期までの3年間で950億円の投資を計画する。成長に更なるブーストをかける同社の今後の展開について賀賢漢社長に聞いた。



プロフィール●が・けんかん
1957年10月14日生まれ。中華人民共和国上海市出身。1993年3月日本大学大学院経済学研究所博士前期課程修了。1993年4月同社入社、1993年11月杭州大和熱磁電子有限公司総経理、1998年3月同社副董事長（現任）、2005年3月上海漢虹精密機械有限公司董事長（現任）、2008年3月香港第一半導体科技股份有限公司董事長（現任）、2011年6月当社代表取締役副社長兼執行役員事業統括担当（現任）、2020年6月代表取締役社長 グループCEO（最高経営責任者）。

第2四半期は売上・利益とも過去最高 中計目標1年前倒しで達成見込む

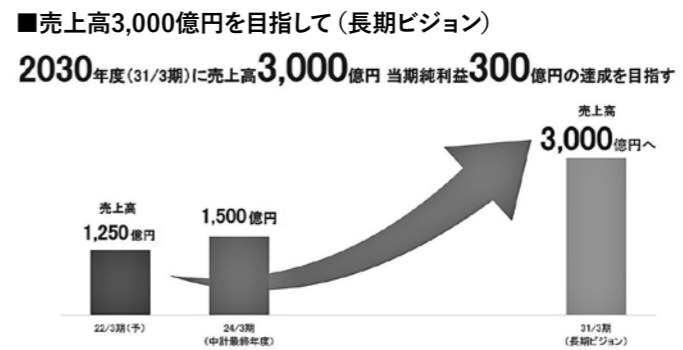
同社は「半導体装置関連」、「電子デバイス」、「その他」のセグメントで構成されている。売上の6割以上を占めているのが「半導体等装置関連」で、半導体の製造工程で欠かせない消費部材や半導体装置部品の開発・製造・販売を行っている。中でも真空シールは世界シェアトップ。

石英製品、セラミック製品、シリコンウエハーの加工と洗浄なども手掛けている。同社を取り巻く環境としては、世界的リモートワークの浸透に伴い、企業や学校でのWeb会議システムの普及拡大などで、パソコンやデータサーバーなどの需要が増加。東南アジアでのコロナの影響

もあり産業用機械や自動車、家電製品など半導体等電子部品の供給が滞る事態となっている。

主要顧客であるデバイスメーカー各社は設備投資の前倒しを決定、保有する製造装置稼働率も高水準となり、製造装置向けの同社の真空部品や半導体製造プロセスに使用される各種マテリアル製品（石英製品・セラミック製品・シリコンパーツなど）の引き合いが強まり、同社の売上は好調に推移した。

2022年3月期第2四半期の業績は、売上が前年同期比43・8%増の598億2600万円、営業利益が同174・3%増の107億3300万円と過去最高を更新。通期業績予想の上方修正も行い売上高1250億円、営業利益225億円と中期経営計画で23年3月期の目標としていた数値を1年前倒しで達成・超過を見通す。



賀賢漢社長は話す。「好調な業績に伴い、今期は通期業績予想を2度上方修正しました。注力商品である半導体マテリアル、装置部品洗

浄が好調です。EVやグリーンエネルギー市場の発展で当社製品のパワー半導体基板の需要も急増しております。私の予想では来期も、半導体業界全体は20%前後成長できると考えております。現在は日米の装置メーカーに加えて、中国メーカーからも注文を頂き、それぞれ生産能力の増強を要

望されている状況です。米中貿易摩擦などもあり、中国政府は早期に国内のデバイス工場を作りたいと考えており、当社もその動きに合わせてこの2年間は生産能力を増強させてきました。工場は増設しておりますが、平行して各工場の自動化・省人化も図り利益率を向上させています」

中国でウエハー事業一部譲渡し財務改善 資金調達成功で設備増強へ積極投資

同社は大口半導体ウエハーなどへ積極的投資をしてきたがウエハー事業は利益を上げるまで時間がかかり、有利子負債の拡大にも繋がり財務状況を悪化させていた。2020

0年7月に賀社長が就任してからウエハー子会社を中国の政府系・民間ファンドに一部譲渡し非連結化、さらに増資を実行。結果、主要経営指標は大幅改善しウエハー事業をはじめ約700億円の調達に成功した。

「中国国内ではハイテク分野について国を挙げて推進しており、政府系・民間系から多くのサポートが受けられる環境です。ウエハー持分法適用関連会社、および連結子会社3社を含む4社を今後中国国内で順次上場させる予定です」(同氏)

また、現地子会社33社を統括する中国本部機能として、

上海に社屋を建設予定。現地での優秀な人材の確保を中長期で図るとともに、ブランド力向上を狙う。さらに各製品の生産能力増強要望に合わせて工場の建設を進めている。

中国での営業・生産拠点の増強と中国市場での資金調達スキームを作り上げたものの、あくまでも同社は日本国内で上場している日本に本社を持つグローバル企業であり、資金調達の選択肢は多様にある。昨年12月には公募増資の実施、約190億円の資金調達を行った。半導体市場・顧客の需要増に素早く対応するための石英・セラミックス・サーモモジュール、メタル加工の生産能力強化に充当する。

国内では半導体や液晶の製造用部品などの材料となるセラミックスの製造を行う石川第二工場内に生産拠点を新設。23年には本格稼働を予定している。

年間配当は前期より16円増の46円 31年3月期売上高3000億円目指す

同社は長期目標として、31年3月期に売上高3000億円、当期純利益300億円を掲げている。設備投資のほか、優秀な人材確保と育成に努め業績拡大を目指す。

こうした中、株主還元についてはどう考えているのだろうか。同氏は話す。「市況の良さもあり、今は成長局面ととらえて生産増強

のため積極投資をしているフェーズです。今回のファイナンス効果も含めて、中長期的な事業拡大を実現して成長スピードを上げ、企業価値を高めることで株主の皆様には報いたいと考えております」

同社では今期業績好調につき、年間配当は前期より記念配を含む16円増の46円を予定している。



▲半導体用シリコンウエハー

【フェローテックHD】株式データ

コード 6890 市場 東証ジャスダック

直近株価	2,612円 (22.1/28終値)
昨年来高値	4,695円 (21.11/19)
昨年来安値	1,600円 (22.1/28)
時価総額	1,316億円
PER	5.1倍 配当利回り —
PBR	1.23倍 決算 8月

2021年3月期 連結業績		前期比
売上高	913億1200万円	11.9%増
営業利益	96億4000万円	60.3%増
経常利益	82億2700万円	93.0%増
当期純利益	82億8000万円	363.9%増

2022年3月期 連結業績予想		前期比
売上高	1250億円	36.9%増
営業利益	225億円	133.4%増
経常利益	235億円	185.6%増
当期純利益	235億円	183.8%増

値動き